

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

		整理番号	1087
事業名	学校用務業務委託		予算科目
担当部課名	教育部	教育総務課	会計
電話	0799 - 37 - 3017		款
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	一般会計・1
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		教育費・10款
			項
			小学校費・2項
			目
			学校管理費・1目
南あわじ市総合計画 施策体系		まちづくりの柱	南あわじ市立小学校及び中学校管理運営 規則第7条
		まちづくりの目標	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_
		施策目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】
該当する事業について「 」を選択		施策的(事業)	業務委託
			負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 榎列・八木・市・神代・三原志知小学校及び三原中学校の児童、生徒、 教職員及び来訪者	対象人数(人) 1,476
	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	給食に関する業務及び施設等の管理業務並びに学校内の清掃等を行い、学校の環境整備に努める。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 給食業務(児童、生徒、教職員への給食の配膳等)の実施。校舎等出入口の開閉、火 気の確認。湯茶の常備、茶器の洗浄及び管理。校地内樹木及び花壇の手入れ。校舎、校 庭の清掃等、環境衛生の保全。	
	背景、委託根拠	(どのような現状・課題・要望があったか、また委託に至った根拠、他の自治体の動向) 旧三原町において、行政改革の推進及び新たに整備した社会教育施設への職員配置等 により、職員定数内での職員配置が困難となり、学校用務業務をシルバー人材センター に委託することとなった。 淡路島内各市の合併後の動向は以下のとおりとなっている。 洲本市は、旧五色町がシルバー人材センターへ学校用務業務を委託していたが、臨時 職員、嘱託職員に統一している。 淡路市は、合併後も旧町での実施方法を継続しており、正職員、臨時職員の配置及び シルバー人材センターへ学校用務業務を委託している。	
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (社団法人南あわじ市シルバー人材センター)	
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし		
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧緑町及び旧西淡町がすべての小中学校に臨時職員を配置、旧南淡町が正職員及び臨時職員 を配置、旧三原町がすべての小中学校の用務業務をシルバー人材センターに委託しており、各 町の対応がまちまちであったため、合併後調整することとなっている。現状では未調整である が、総務課と法的、経済的な検討を行い、対応方法を協議している。		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	年間必要業務日数				指標単位
						日
	指標説明 (指標算出方法等)	榎列・八木・市・神代・三原志知小学校及び三原中学校での必要業務日数				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	1,680	1,666	1,673	1,652	
	実績値	1,587	1,532	1,563		
	達成度 (%)	94.5	92.0	93.4	-	
	目標値設定の考え方	榎列・八木・市・神代・三原志知小学校及び三原中学校に勤務する学校用務業務従事者の委託契約書に規定する年間必要業務日数(「業務を要しない日」を除いた日数)の合計値				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	勤務日数割合				指標単位
						%
	指標説明 (指標算出方法等)	実業務日数(学校用務業務従事者7人の合計)÷要業務日数(学校用務業務従事者7人の合計)×100				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	100	100	100	100	
	実績値	94.5	92.0	93.4		
	達成度 (%)	94.5	92.0	93.4	-	
	目標値設定の考え方	榎列・八木・市・神代・三原志知小学校及び三原中学校の学校用務業務従事者7人の要業務日数の合計値				
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	6,101	8,954	9,575	0	
	学校用務業務委託料	6,101	8,954	9,575	0	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	6,101	8,954	9,575	0	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	92	90	90	0	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
	事業量1(事業に要した日数)	3	3	3	0	
	事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	0	
年間経費([A]+[B])	6,193	9,044	9,665	0		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	4.2	6.1	6.5	0.0		
受益者人数(1,476)1人当り経費(千円)	4.2	6.1	6.5	0.0		
経費に関する補足説明	平成20年度からシルバー人材センターへの業務委託を廃止。					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		%	94.5	92.0	93.4	-	
(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 榎列・八木・市・神代・三原志知小学校及び三原中学校において、計画どおりに学校用務業務は実施されている。							3
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	94.5	92.0	93.4	-	
	成果向上率	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	-	2.6	1.5	-	
(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 学校用務業務従事者が欠務となる場合は、シルバー人材センターが代行措置を実施している。							4
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		千円	3.9	5.9	6.2	-	
	効率性増減率	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
		%	-	51.3	4.8	-	
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 学校用務業務従事者1日あたりの経費が表示されているが、経費の減は学校用務業務に従事する時間及び日数の減にも関わるため、難しいと思われる。							3
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低					
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 学校教育において、短時間で円滑に給食を実施すること及び学校の環境を保全することなど、児童、生徒の学習環境を整える必要性は高い。						
総合評価	自己評価をふまえた現状分析						
	学校設置者である南あわじ市が学校用務業務を実施することで、児童、生徒が学習しやすい環境を提供している。						
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> <p>達成度</p> <p>5 4 3 2 1 0</p> <p>必要性 ← 0 → 有効性</p> <p>効率性</p> </div>							

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>学校用務業務については、学校管理運営において必要不可欠であるが、学校用務業務をシルバー人材センターに委託することは労働者派遣業法に抵触するため、平成20年度から廃止することとし、その対応策として臨時職員の配置が必要である。</p>	
(現状維持以外の改善方法)	<p>シルバー人材センターへの学校用務業務委託を廃止し、臨時職員を配置することにより法違反を解消できる。</p>	
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	<p>合併後の調整課題であった旧町間の各学校によってバラつきがある学校用務業務の実施方法を統一できる。</p>	
	コスト面	コスト面
	<p>シルバー人材センターへの学校用務業務委託を廃止することにより委託料は皆減となる。</p>	
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>学校用務業務については、学校管理運営において必要不可欠であるため、シルバー人材センターへの学校用務業務委託を廃止し、その対応策として臨時職員を配置しない場合、教職員の負担が増大し、本来の教育活動に支障が出てくることが予測される。</p>	